

GALE PRIMARY SOURCES  
LIBERTY MAGAZINE  
HISTORICAL ARCHIVE,  
1924-1950

20世紀前半のアメリカで一世を風靡した大衆娯楽雑誌『リバティ』をフルカラーで再現し、フルテキスト検索を実現



# Liberty Magazine Historical Archive 1924-1950

# Liberty Magazine Historical Archive

本データベースは、20世紀前半のアメリカの大衆誌『リバティ』の創刊から廃刊までの全号を電子化し、原紙を忠実にフルカラーで再現、OCR処理を施しフルテキスト検索を実現したものです。

『リバティ』は、タブロイド紙『ニューヨーク・デイリー・ニュース』発行人のジョゼフ・パターソンと『シカゴ・トリビューン』発行人のロバート・マコーミックの二人の新聞人によって創刊されました。創刊に当たり誌名を公募し、応募のあった名前の中から「アメリカという国家とアメリカ人の意識を表象するのに最もふさわしい言葉」（創刊号の論説欄）として『リバティ』が選ばれました。（誌名を公募するために準備号が2回発行されましたが、本データベースには準備号も収録されています）「万人のための週刊誌（A Weekly Periodical for Everyone）」との副題を掲げたように、『リバティ』がターゲットにしたのは大衆です。大衆向けの雑誌であれば、すでにパルプ・マガジンという通俗的物語を提供する安価な雑誌が出回っていましたが、『リバティ』がパルプ・マガジンと異なっていたのは、大衆の関心を引きつけるためにフィクションだけに頼らなかったことです。1920年代、アメリカでは自動車、電化製品が一般家庭でも購入できる大衆消費財として普及し始め、映画、ミュージカル、ベースボール、ボクシング、ジャズなど、様々な娯楽が大衆向けに提供される一方で、古い因習は廃れ、新しいモラルを持った人々が社会に登場していました。後にジャズ・エイジ、アスピリン・エイジ、狂乱の20年代などと回顧される1920年代は、同時代人にとっても面白い話題に満ちていました。このような時代のニーズを汲み取るために出版人は新しい雑誌の創刊に挑みます。ヘンリー・ルースによって創刊された週刊誌『タイム』（1923年創刊）もその一つですが、パターソンとマコーミックは、『タイム』のようなニュースという切り口でも、パルプ・マガジンのようなフィクションという切り口でもなく、忙しい現代人向けの娯楽雑誌というコンセプトを打ち出し、『リバティ』を世に送り出しました。なお、忙しい読者のために用意されたのが通読時間（Reading Time）です。編集部の人々が記事を読み通すのにかかった時間を平均し、「5分40秒」のように各記事の冒頭に記入しました。

有名人（セレブ）は『リバティ』のキラーコンテンツで、映画俳優、ミュージシャン、スポーツ選手らの話題が創刊当初から紙面を飾りました。記事の主題として有名人が取り上げられたばかりでなく、みずから一文を寄せた有名人も少なくありません。グレンダ・ガルボの「私はなぜ結婚しないのか」、メアリー・ピックフォードの「いろいろあった私がそれでも幸せな理由」、ベティ・デイヴィスの「そう、退路を断ちなさい」、レスリー・カーターの自伝「赤毛の女性の肖像」、ベーブ・ルースが引退後に寄稿した「過去の人と言われて」、ベーブ・ルースのライバル、ルー・ゲーリックの「俺がベーブ・ルースを嫉妬しているって?」など、俳優やスポーツ選手が人生や幸福を語ったものが目立ちます。音楽では、1940年代後半に掲載された“Records”欄に、フランク・シナトラ、ビング・ク

ロスビー、ベニー・グッドマン、ルイ・アームストロングら、有名ミュージシャンがレコード・アルバムの短評を寄せています。私生活を綴った記事や自伝、回想録で取り上げられた有名人は、チャーリー・チャップリン、マリー・ドレスラー、ジーン・ハーロウ、リアン・ギッシュ、バーバラ・ラ・マー、イングリッド・バーグマン、ロバート・テイラー、バーナード・ショー、コナン・ドイル、エドガー・フーズァー、トマス・E. デューイ、ウッドロー・ウィルソン、セオドア・ルーズベルト、ジョン・L. サリヴァン、ジミー・ウォーカー、ルディ・ヴァリー、マンフレート・フォン・リヒトホルフェンなど、俳優、歌手から作家、スポーツ選手、政治家に及びます。

社会風俗面では、新しいタイプの若者が格好の話題を提供しました。特に、古い因習や規範に縛られない若い女性の行動やファッションは「フラッパー」や「イット・ガール」として世間の耳目を集めました。『リバティ』は、元祖フラッパーのコーリン・ムーアやデパート店員がデパートのオーナーを誘惑する映画『イット（あれ）』で主役を演じ、セックス・シンボルとして一世を風靡したクララ・ボウなど、有名女優をフィーチャーする一方で、断髪、喫煙、美容整形など女性の間広がった流行にも光を当てています。『リバティ』の手にかかると政治もエンターテインメントと化します。イタリアのムッソリーニ、ドイツのヒトラー、ソ連のスターリン、イギリスのチャーチル、インドのガンジーなど、従来の枠に収まらない新しいタイプの政治家が登場したこの時代、エンターテインメントとしての政治の話題には事欠きませんでした。ムッソリーニの知られざる一面を描いた「ムッソリーニ：女性の偶像」、ヒトラーの別荘の使用人だったポーリン・コーラーによる「ヒトラーの別荘での日々」、謎の死を遂げたスターリン夫人ナジェージュダ・アリルエワの生涯を追った「スターリンの妻の奇妙な生と死」、チャーチルの首相就任直後、チャーチルがアメリカ人の血を受け継いでいることを示した「ウィンストン・チャーチルとアメリカ人の母親」、性的禁欲の宣誓に背いたとの噂が流布していることに対してガンジー自ら包み隠さず語った「私の性生活」など、日常生活、女性、家族、性といった大衆好みの視点からの記事が目立ちます。数ある政治家の中で『リバティ』に最も取り上げられた政治家を挙げるとすれば、フランクリン・ルーズベルトでしょう。『リバティ』は1930年代初頭に経営不振に陥り、タブロイド紙『デイリー・グラフィック』社主で告白雑誌『トゥルー・ストーリー』を成功させたバーナー・マクファーデンに売却されます。ルーズベルトと交友関係にあり、その政策を支持していたマクファーデンは、ルーズベルトや夫人、娘、母に寄稿の機会を与えたばかりか、ミステリー好きのルーズベルトが提供するプロットを基にヴァン・ダイン、ルパート・ヒューズ、ジョン・アースキンらの作家が書き上げたミステリーを掲載するなど、ルーズベルト寄りのスタンスを鮮明にします。創業者が政府の介入を嫌う共和党支持者だった『リバティ』は、20年代の小さな政府から30年代の大きな政府へのアメリカ政治の転換と軌を一にするように、社主が変わることによってその政治的スタンスを転換させたのでした。

# Liberty Magazine



## ブロードウェイ

『リパティ』が創刊された頃、ブロードウェイは黄金時代を迎えていた。その立役者がジョージ・コーハン。左はコーハンの自伝、下は1927年初演の『ショーボート』のレビュー。



## ベースボール

タイ・カップ、ベープ・ルース、ルー・ゲーリック、ジョー・ディマジオ、ジャッキー・ロビンソンらのスター選手が球界で活躍した時代。左の記事は不調のどん底にあったベープ・ルースが復活できるかを占い、右の記事はベープ・ルース引退後のスター選手としてジョー・ディマジオを讃えている。



## 映画スター



歴史に残る映画が製作され、観客を動員したハリウッド黄金時代は多くのスターを輩出した。グレタ・ガルボ、ベティ・デイヴィス、メアリー・ピックフォード、チャーリー・チャップリン、クラーク・ゲーブル、ロバート・テイラーなど、自ら『リパティ』に一文を寄せたスターも少なくない。



## ジャズ

ポール・ホワイトマン、ヴィンセント・ロベス、グレン・ミラー、ベニー・グッドマンら、シンフォニック・ジャズやスウィング・ジャズの全盛期。1938年、ベニー・グッドマンはカーネギー・ホールでジャズ・コンサートを行なう。上はコンサートの2ヶ月後にグッドマンが寄稿した「スウィングは本当のところ、人々に何をもたらすのか」



## サーカス

アメリカ大衆文化の真髄ともいべきサーカス。現代アメリカのサーカスといえば「地上最大のショー」で知られるリングリングサーカス団。記事は、空中ブランコ曲芸師のリアン・ライツェルが公演中の落下事故で死亡したときの「スターダム代償」。



# The Historical Arch



## 新しい女 フラッパー イット・ガール



ヴィクトリア朝的な古いモラルに縛られない新しい女が登場した時代、ファッション、セックス、飲酒、喫煙など生活のあらゆる面でモラルの革命が進んだ。『リバティ』は「フラッパー」や「イット・ガール」と呼ばれた新しい女たちの話題も提供した。



## フランクリン・ルーズベルト

大恐慌の時代、ニューディール政策でアメリカを立て直したルーズベルト大統領だが、大統領就任前は、小児麻痺という身体的ハンディを不安視する人も多かった。『リバティ』はルーズベルトにインタビューを行ない、医者 の 診 断 結 果 も 紹 介 し な が ら、不 安 要 素 は な い と の 結 論 を 下 し て い る。著 者 の ア ー ル ・ ル ッ カ ー は 後 に 大 統 領 の ス ピ ー チ ラ イ タ ー に な る 人 物。



## ウォルト・ディズニー



ディズニー社の創立（1923年）とほぼ同時期に創刊された『リバティ』はディズニーの創作活動を追い続けた。『白雪姫』とミッキーマウスの誕生のエピソードを紹介する記事。

## 禁酒法

禁酒法の時代、『リバティ』は禁酒も好んで取り上げた。1928年には禁酒賛成派と反対派がそれぞれ理由を説明する記事を掲載した。



## コメディアン



喜劇の黄金時代にあつて、『リバティ』にはチャップリン、ハロルド・ロイド、マルクス兄弟、ハリー・ラングドン、マック・セネットなどコメディアン、喜劇映画の話題も豊富。1927年に書かれた左の記事はハロルド・ロイドが最も稼ぐ俳優であることを紹介している。上はチャップリン『サーカス』のレビュー記事。

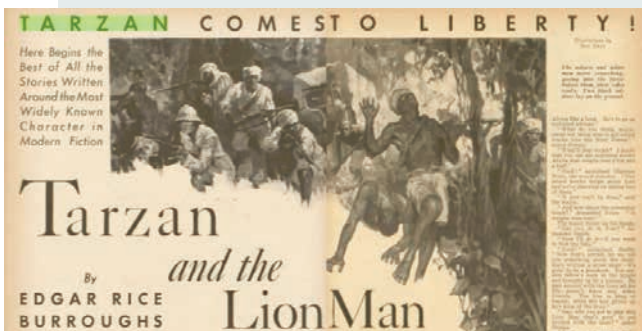
## 自動車



一部の富裕層のための贅沢品だった自動車も 1920 年代には大衆が購入できるほど安価になった。「あなたも自動車を買える」という 1925 年の記事では「自動車はもはや贅沢品ではなく、安く購入できる。維持費が恐ろしく高いというも昔の話」と述べている。

## ヒーロー

映画は映画スターとともに、架空のヒーローを生んだ。現代アメリカの大衆のヒーローの原型とも言うべき存在がターザンとスーパーマン。下はエドガー・ライス・バロウズの連載「ターザンとライオン・マン」、右は漫画キャラクターのスーパーマン秘話。



## Confessions of a Shyster



## 犯罪

戦間期のアメリカの犯罪と言えば、アル・カポネやリンドバーグ子息誘拐殺人事件が有名だが、『リバティ』は誘拐殺人、詐欺、窃盗、銀行強盗、酒類密造、万引き、宝石密輸など、様々な犯罪を伝えた。夫を殺害したルース・スナイダーが電気椅子で死刑執行された場面を隠し撮りした写真はタブロイド紙に掲載されたが、右は隠し撮りに成功した裏話を紹介する記事。

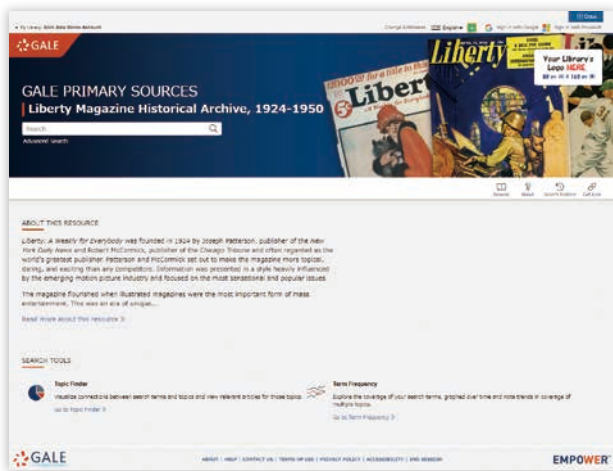
## 日本



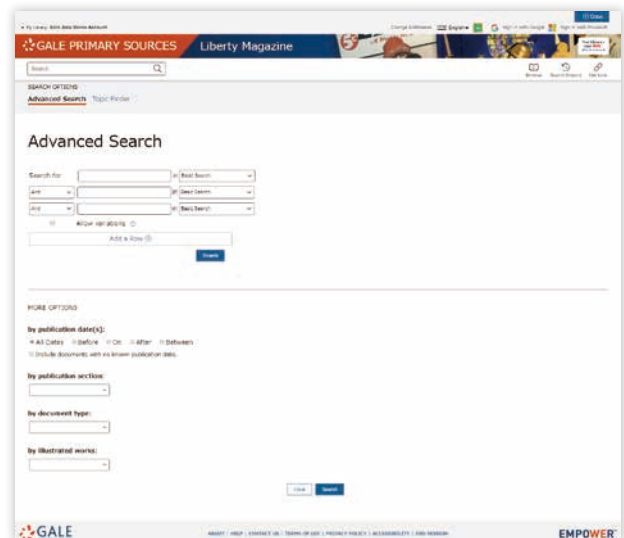
日本が軍事的に対外拡張する中、『リバティ』には「日本はアメリカの征服を試みているのか」「日本はアラスカを併合するのか」といった記事が掲載され、日本脅威論が渦巻いた。日本人、在米日系人もそれに応答した。左から小村欣一（外務省情報部次長、小村寿太郎の長男）、松岡洋右（前国際連盟首席全権）、齋藤博（駐米大使）、メアリー・オオヤマ（日系 2 世）。

『リバティ』に寄稿した作家、批評家には、ジャズ・エイジの旗手スコット・フィッツジェラルド、アメリカ人として初めてノーベル賞を受賞したシンクレア・ルイスのほか、セオドア・ドライサー、シャーウッド・アンダーソン、ヘンリー・ルイス・メンケン、ジョン・ドス・パソス、リチャード・ライト、マーガレット・ミッチェル、エドナ・ファーバー、ダシール・ハメット、E.S. ガードナー、アガサ・クリスティ、エドガー・ライス・バローズ、ジョン・モンク・サンダース、ブルース・バートン、アーヴィング・ウォレス、ジョン・オハラ、フィンリー・ピーターダン、ルイス・ブロムフィールド、マッキンレー・カンター、バーナード・ショー、H.G. ウェルズら、戦間期を代表する作家、大衆作家、

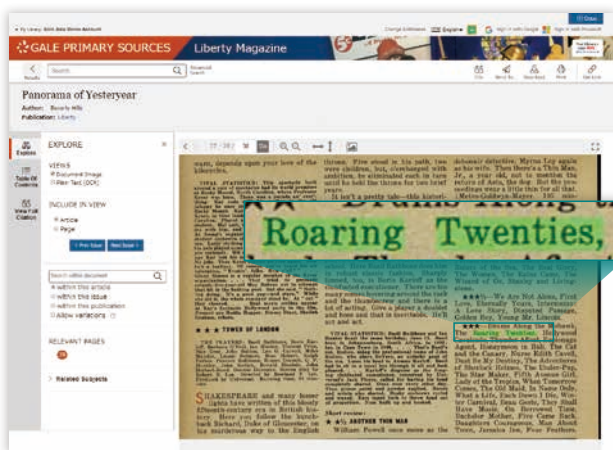
ミステリー作家、SF 作家、脚本家、ユーモア作家が含まれます。『リバティ』はまた、エンターテインメント小説の宝庫でもあり、これらを原作として 100 作を超える映画が生まれました。映画、野球、ボクシング、ミュージカル、ジャズ、サーカス、ミステリー、大衆小説などのエンターテインメントから、新しい女性たちの社会風俗、さらには犯罪まで、『リバティ』は 20 世紀前半のアメリカの大衆文化と社会風俗を活写しています。空前の繁栄に沸いた 20 年代から大恐慌に見舞われた 30 年代を経て戦中戦後の 40 年代まで、現代アメリカの大衆文化の証言者として『リバティ』は不朽の価値を持っています。



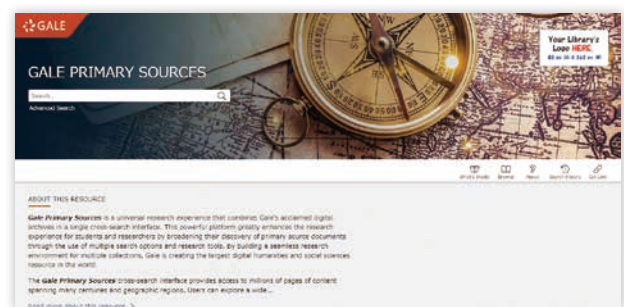
トップページ



詳細検索（検索範囲の指定・掛け合わせ検索・ファジー検索）。発行日、記事欄等で検索の絞り込み



一字一句をフルテキスト検索。検索語はハイライト表示



Gale の統合検索プラットフォームでは、追加コストなしで購入済みの Gale の買切りデータベースとの横断検索ができます

## データベースの概要

- ◆ **収録期間:** 1924 年 5 月 10 日の創刊号から 1950 年 7 月 1 日の最終号まで (1924 年 5 月 1 日、5 月 4 日の準備号も収録)
- ◆ **機能:** ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ダウンロード、メール送信、書誌自動生成、ブックマーク機能を実装。さらに、Gale の統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では、追加コストなしで、購入済みの Gale の買切りデータベースとの横断検索に加え、記事の OCR テキストをダウンロードすることができます。(一部、買切りデータベースの中には、Gale Primary Sources での横断検索ができないものもあります)